

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 26 年 6 月 30 日(月) 10:00 ~ 10:50
生 徒	1 年 A 組 男子 17 名 女子 17 名 計 34 名
授業場	1 年 A 組教室
授業者	吉 岡 康 一 朗

1 単元名 *Sunshine English Course 1* Program 4 リサイクル活動

2 単元について

(1) 単元観

近年、社会や経済のグローバル化にともない、私たちを取り巻く社会が劇的に変容してきている。生徒たちは社会の変化に対応しながら生き抜いていかなければならず、そのためには単に知識を持っていたり、情報を受信したりできるだけでなく、他者との関わりの中でそれらの知識や情報を交換したり共有したりしながら、自らの意思や考えなどを発信していくことのできるコミュニケーション能力の育成が求められている。そのような社会の要請の中で、現行の学習指導要領においては、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力を育成することや、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能をバランスよく指導することの重要性が示されている。また、小学校においては平成23年度より外国語活動が導入され、音声面を中心としたコミュニケーション能力の素地が養われてきた。さらに、平成25年12月文部科学省より「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が示され、英語によるコミュニケーション能力の確実な育成に向けて、小学校中学年では活動型、高学年では教科型の授業が展開されること、そして中・高等学校ではより高度な言語活動を行うことが求められてきている。

このような背景のもと、今年度、附属小中では連携を強めるために「自ら豊かなコミュニケーション能力を高めようとする児童・生徒」という共通の教科主題を設定して研究を進めている。また附属小学校においては英語科が新設され、全学年で実施され始めたところである。中学校の指導においては、今後として学んできた児童と公立小学校で外国語活動をと関連させた指導内容の充実が求められており、これまで以上に小中の連携の必要性が高まってきている。そこで中学校の指導にあたっては、小学校で扱われた学習内容を振り返ったり、既習事項を学び直したりすることをねらいとする「スパイラルタイム」を設定し、小中連携を意図した活動を取り入れている。本単元までの既習事項としては、Program1でアルファベットの発音と綴りの関係性についてフォニクスを取り入れた指導を行い、Program2, 3ではI（1人称）、You（2人称）を主語とするbe動詞や一般動詞を用いた文を学習してきた。

本単元Program4では疑問詞WhatやHow manyを用いた疑問文とその答え方や名詞の複数形を学習する。疑問詞についてはWhat, Howが初出である。疑問詞WhatやHowについては小学校外国語活動の中でも、これらの疑問詞を用いた定型のコミュニケーション活動を行ってきたことから、それらの活動を踏まえつつ、中学校では対話の内容を深めるために、自らの意思を働かせながらコミュニケーション活動を行うように発展させていくことが重要だと考える。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

これら視点を踏まえ、本単元 Program4 では、疑問詞 What や How many を含む疑問文を用いてのコミュニケーション活動を取り入れる中で、単に文法的知識や定型文を使用するだけでなく、相手の好みや持ち物の数などについて尋ねたり、対話の話題に応じて内容を深めたり、互いに自分のことを伝えたりできるようなコミュニケーション活動を行う中で、既習事項をどれだけ使えるようになってきているかを振り返らせながら、自己表現力を高めたい。

〈研究とのかかわり〉

【視点を当てる反省と自覚の関与の項目】

【実践や生活とは外在的な知、技（消極次元）】  【実践や生活にかかわるような知、技（積極次元）】

英語科における「やるべきこと」とは、単語・熟語・文法事項などの基礎的・基本的学習事項を定着することであり、「やりたいこと」とは、それらの学習事項（既習事項）を用いて、自らの意思や考えなどを、英語を用いて表現したり、相手のことを理解したりすることであると捉えている。そこで、生徒の自律性を高めるために上記の項目に視点を当て、以下の手立てを講じる。

単元の中に既習事項を用いて、自分に関連することを表現する課題を設定する A

また、コミュニケーション活動を行う際に、情意面だけではなく、使用した（する）表現や対話の内容について視点を持たせて振り返り（相談）させる ■（研究変数）ことにより、生徒自身に「できたこと」と「できなかったこと」を自覚させ、どのようにすればよりコミュニケーションが豊かになるのかを考えさせる手立てとしたい。

3 単元の目標

疑問詞 what や How many を用いて、相手の好みや持っているものなどについて尋ねたり答えたりできるようにし、名詞の複数形を用いて、持ち物の数を表すことができるようにする。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識理解
ア. 疑問詞 What, How many を用いながら、積極的に相手とやり取りしようとしている。	ア. 疑問詞 What, How many を用いて、相手の好みや持ち物の数に尋ねたり答えたりすることができる。 イ. Program4 の本文を正しく音読することができる。	ア. 疑問詞 What, How many や名詞の複数形を用いた文を正しく聞き取ることができる。 イ. Program4 の本文を読んで正しく内容を把握することができる。	ア. 疑問詞 What, How many を用いた疑問文の構造とその答え方を知っている。 イ. 名詞の複数形の変化について知っている。

5 単元計画 (全8時間)

時	学習事項	主な学習活動	評価規準			
			関	表	理	知
1 2	Program4 §1 疑問詞 What	○疑問詞 What を含む疑問文と答え方の導入		ア		ア
		○§1 新出語彙・本文内容理解・音読練習		イ	イ	
3 4	Program4 §2 名詞の複数形	○名詞の複数形の導入		ア		イ
		○§2 新出語彙・本文内容理解・音読練習		イ	イ	
5本時	自己表現活動①	○疑問詞 What 等を用いたコミュニケーション活動 A ■	ア	ア	ア	
6 7	Program4 §3 疑問詞 How many	○疑問詞 How many を含む疑問文と答え方の導入		ア		ア
		○§3 新出語彙・本文内容理解・音読練習		イ	イ	
8	自己表現活動②	○疑問詞 How many 等を用いたコミュニケーション活動 A ■	ア	ア	ア	

6 本時案

(1) 本時の目標

疑問詞 **What** を用いて、相手の好みやするスポーツなどの話題について、ペアで協力して対話を続けることができる。

(2) 本時の展開 (5 / 8 時間)

(○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ	【評価方法】備考
<p>1. 疑問文の復習として、Do の疑問文に答えることができる。</p> <p>名詞: 食べ物, スポーツ, 動物など 動詞: eat, play, have など</p> <p>2. 疑問詞 What の疑問文に答えることができる。</p> <p>【生徒の予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> What do you like? play, eat, study, have, do など What 名詞 do you like? 	<p>□疑問文の復習をしよう。次の質問に答えてみよう。</p> <p>○“Do you like 名詞?” (絵を見せて) “Yes, I do. I like 名詞.” “No, I don’t. I don’t like 名詞.”</p> <p>○何が好きか聞きたいときはどうすればいいですか。</p> <p>△like 以外にどんな動詞が使えるだろうか。</p> <p>○ではもっと話題を絞って好きなものを聞きたかったら?</p>	<p>【発表】全体/個 ※Yes/No + 1文</p> <p>【小学校外国語活動とのつながり(単元)】 Hi, friends 1 Lesson4 “I like apples?”</p> <p>【発表】全体/個</p> <p>【小学校外国語活動とのつながり(単元)】 Hi, friends 1 Lesson5 What do you like?</p>
<p>What の疑問文などを用いて、相手と互いのことについて対話を1分間続けよう。A</p>		
<p>3. これまで学習した疑問文についてペアで応答し合い、質問の仕方や答え方を確認することができる。</p> <p>4. 対話を続けるための工夫をワークシートに記入することができる。</p> <p>【生徒の予想される答え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話しやすい話題を選択する 相手の答えに相づちを打つ 互いに共通の話題で話す 詰まったら話題を変える 	<p>□これまで学習した疑問文が使えるかどうかペアで確認してみよう。</p> <p>①Do you like ~ ? (名詞を変えて) ②What do you ~ ? (動詞を変えて) ③What 名詞 do you like? (名詞の種類を変えて)</p> <p>○対話を続けるためにはどのように対話をつなげれば良いかをペアで協力して考え、ワークシートに記入しよう。■</p> <p>△どんな相づち (反応) ができるだろう。 Me too. /Really? Wow. /OK. /Cool. Good. /I see. など</p>	<p>【観察】ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート配布 (can-doチェック) ※できるかどうかを互いにチェックしながら進める <p>【ワークシート】 ペア</p> <ul style="list-style-type: none"> 話題をすぐに変えるのではなく、相づちを打ちながら深めていくことを意識させる。
<p>5. ペアで対話を1分間続けることができる。</p> <p>6. 学習を振り返り、ワークシートに感想を書くことができる。</p>	<p>□ペアで考えたことを生かしながら、1分間対話を続けよう。</p> <p>○今の対話で課題は何だろう。</p> <p>□今日の授業を振り返り、対話を続けるための課題をワークシートに記入しよう。</p>	<p>【観察】 ペア</p> <p>【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシート回収